

出題傾向

大問8題、小問45問で、すべて4つの選択肢から正解を1つ選ぶ選択式の問題となっている。構成は、会話文問題1題（小問10問、A・Bの2つの会話文にそれぞれ5問ずつ）、整序英作文問題1題（小問5問）、中文空所補充問題1題（小問5問）、文法・語法問題2題（それぞれ小問5問）、語彙問題1題（小問5問）、中文読解問題1題（小問5問）、長文読解問題1題（小問5問）である。

内容・設問数とも公募推薦入試と同じ出題となっている。

学習アドバイス

全体的な難易度は基本的であり、高校で学習する英語の知識を確実にしておくことが求められている。とりわけ、長文問題が3題出題されているため、読解の訓練をしっかりと積んで臨まなければ時間内に余裕を持って解き終わることは容易ではない。

●会話問題

会話問題では、A問題とB問題に分かれており、それぞれある程度の分量の会話文に対して、空所に入る適切な文を選ぶ問題3題ずつと、内容に関する英問英答問題2題ずつから構成されている。注意が必要なのは空所補充問題である。全ての空所について共通の選択肢が与えられている形式なので、点差が付きやすい。丁寧に解答するよう心がけよう。基本的には直前の問いかけに正しく答えている選択肢を選ぶ、直後の答えに対して適切に問いかけている選択肢を選ぶという問題が大半である。また会話の内容だけではなく文法を無視してはいけない。例えば、空欄に対する答えの中に指示語がある場合、単数・複数の区別などの基本に注意するなど、文法的視点を忘れないことも効果的である。会話文が長めなのが特徴なので、少し長めの会話文の問題で流れをつかむ訓練をしよう。

●整序作文問題

整序作文問題では、与えられた日本語訳を参考に、英文中に用意された4つの選択肢を並び替え、指示された箇所の選択肢を答える形式である。日本語訳が与えられている点と選択肢の数が4つと比較的少ないのが特徴である。

対策としては、頻出の構文や定型表現が素直に出題される傾向にあるので、文法的規則だけでなく、文法書などの例文をそのまま頭に入れておくこととスムーズに解答できる。

●中文空所補充問題

中文空所補充問題では、200語～300語程度の説明文を題材にして、文章中の5つの空所に入る適切な語彙を選ぶ形式のものと、100語～150語程度のA、Bの2つの説明文を題材にして、Aには2つ、Bには3つの空所に入る適切な語句を選ぶ形式の出題である。

対策としては、まずは標準的な単語集を1冊仕上げることである。語彙力の強化だけでもかなりの得点源になる。もちろん、知識だけで解けない問題、すなわち文脈で解く問題も出題されるので、文脈に沿った適切な単語の選択を心がける必要がある。空所を含む文章の直前と直後の1文が根拠になる場合がほとんどなので、基本的には一文一文をしっかりと理解する読解を心がけることで十分対応できる。

●文法・語法・語彙問題

文法・語法・語彙問題は、いずれも英文中の空所を補うのに適切な選択肢を選ぶ形式である。なお、日本語訳が与えられているものが1題、与えられていないものが2題となっている。

対策としては、出題される問題は基本レベルだが全範囲から満遍なく問われるので、問題集で学習する際には正解を丸暗記するのではなく、どの文法的内容が問われているのかに気づく力を付けるよう心がけよう。また、まぎらわしい単語の識別や熟語の知識を問う設問も散見されるが、いずれも難度の高いものではない。基本単熟語・語法の知識を定着させれば十分に対応できる。

●長文読解問題

長文読解問題では、700語程度の英文を題材にして、内容に関する英問英答の問題が4題と、内容に関する日本語で書かれた選択肢を選ぶ問題が1題から構成されている。

対策としては、基本的には1つのパラグラフ（段落）に1つの設問が出題されているので、文章全体のテーマを意識し、それぞれのパラグラフ（段落）の要旨を明確にしながら読むことを心掛けて欲しい。解答する際には根拠となるのがどのパラグラフ（段落）のどのセンテンス（文）かを明確にし、メモをとるなどして、根拠をもって解答するよう普段から意識するとよいだろう。まずは大問③程度の分量で、易しめのものからスタートし、徐々に難度を上げていくと良いだろう。題材としては、英検準2級の第3問などを使って問題を解く訓練をすると同時に、中高生向けの英字新聞などを読み、様々なテーマや、それに関する単語・熟語に触れ、読解力を付けるとよいだろう。また、最後には、過去問を使って演習することも忘れないでほしい。

以上を参考に是非とも合格を勝ち取ってほしい。